

$\mathbb{P}^1(K) = K \cup \{\infty\}$ とおく. Γ_K は $\mathbb{P}^1(K)$ へ 1 次分数変換によって作用する. そのとき, 各 orbit を Γ_K の cusp という. $\sigma = \alpha/\beta \in \mathbb{P}^1(K)$ をとる. ただし, $\alpha, \beta \in \mathfrak{o}_K$ であるようにとっておく. σ に $\mathfrak{o}_K\alpha + \mathfrak{o}_K\beta$ を対応させることで, $\mathbb{P}^1(K)$ から K の ideal 類群 Cl_K への全単射が得られる. したがって, Γ_K の cusp の数は K の類数に等しい.

$M_k(\Gamma_K)$ を Γ_K に関する weight k の Hilbert modular forms のなすベクトル空間とする. 任意の $\sigma \in \mathbb{P}^1(K)$ に対して, $g_\sigma \cdot \sigma = \infty$ となる $GL_2^+(K)$ の元 g_σ が存在する. $f \in M_k(\Gamma_K)$ を任意にとると, K 中の rank n の \mathbb{Z} -加群 M が存在して $f|_k g_\sigma$ を次のように Fourier 展開することができる:

$$f|_k g_\sigma = \sum_{\nu \in M^\vee} a_\nu e(\text{Tr}(\nu z)).$$

ここに, $M^\vee = \{\lambda \in K \mid \text{Tr}(\lambda\mu) \in \mathbb{Z} \ (\forall \mu \in M)\}$, $e(\) = \exp(2\pi i \)$, $\text{Tr}(\nu z) = \sum_{i=1}^n \nu^{(i)} z_i$ である. $a_\nu \neq 0$ ならば, $\nu = 0$ または ν は総正 (つまり $\nu^{(i)} > 0$ ($i = 1, \dots, n$)) であることが知られている (Koecher の原理). \mathcal{D}_K を K の共役差積とし,

$$\Lambda_K = \{\nu \in \mathcal{D}_K^{-1} \mid \nu \text{ は総正, または } 0\}$$

とおく. $\sigma = \infty$ に対して上の Fourier 展開を用いると, $f(z)$ は

$$f(z) = \sum_{\nu \in \Lambda_K} a_f(\nu) e(\text{Tr}(\nu z)), \quad a_f(\nu) \in \mathbb{C}$$

と表される. さらに Fourier 係数 $a_f(\nu)$ がすべて整数であるとき, f は整係数 Hilbert modular form と呼ばれる.

$M_k(\Gamma_K, \mathbb{Z})$: Γ_K に関する weight k の整係数 Hilbert modular form 全体

定義 1.3 $f \in M_k(\Gamma_K)$ とする. Γ_K の各 cusp の代表元 σ をとって, $f|_k g_\sigma$ を Fourier 展開して $a_0 = 0$ が成立するとき, f は cusp form と呼ばれる.

Γ_K に関する weight k の Hilbert cusp forms のなすベクトル空間を $S_k(\Gamma_K)$ で表す. h_K を K の類数とすると, Γ_K の cusp の数は h_K であるから,

$$\dim M_{2k}(\Gamma_K) = \dim S_{2k}(\Gamma_K) + h_K$$

となる.

正の整数 d に対して

$$M(\Gamma_K)^{(d)} := \bigoplus_{d|k} M_k(\Gamma_K), \quad M(\Gamma_K, \mathbb{Z})^{(d)} := \bigoplus_{d|k} M_k(\Gamma_K, \mathbb{Z})$$

とおく. 特に,

$$M_{\text{ev}}(\Gamma_K) = M(\Gamma_K)^{(2)}, \quad M_{\text{ev}}(\Gamma_K, \mathbb{Z}) = M(\Gamma_K, \mathbb{Z})^{(2)}$$